



川に見る・日本の四季③ 利根川水系の「秋」を追う

雲海の絶妙な演出——赤城山・大沼の秋景。

暗いうちに宿を出て、赤城山とそのカルデラ湖、大沼(標高約1,350m)を一望できる地点に登った。すべてが雲海の下で眠っていたが、陽が昇り始めると雲海がゆっくりと動き、まず、原生林に囲まれた大沼が姿を現してきた。太陽の上昇とともに、景色が刻一刻と変わっていく。大自然の絶妙な演出に息をのむ。

大沼全体が姿を現すまでの時間はきわめて短かった。大沼の秋は一面の紅葉で知られるが、夜明けの霧越しに見る

紅葉の大沼は趣が深く、味わい尽きぬ魅力があった。大沼に目を奪われている間に陽が昇り、目を転じると秋真っ盛りの赤城山が朝日に映えていた。

ちなみに赤城山は、大沼の周囲を取り囲む黒檜山や駒ヶ岳、長七郎山、地藏岳、荒山などの峰々(標高約1,200~1,800m)の総称で、日本百名山のひとつ。赤城山に源を発する沼尾川や白川などが曲折して利根川に合流している。



- (上) 大沼の湖畔を一周した。10月初めの空と湖面のブルーに、紅葉が鮮やかに映えている。湖畔コースは紅葉を楽しむハイカーで賑わい、また湖面にはワカサギ釣りのボートが多数見られた。(群馬県前橋市)
- (中) 壺仙の滝。大きな穴の開いた赤茶色の岩肌を落下するこの滝は、落差約35m。いささか不気味な感じもするが、野趣満点である。滑り落ちる白い水流が、秋の冷気を発していた。滝に至る山道には「熊に注意」の看板とドラム缶と叩き棒が何か所かに。びくびくしながら進んだ。紅葉には少し早かったようだ。(群馬県草津町、小雨川)
- (下) 人間にとって水の恩恵は数知れないが、作物はその典型。吾妻川の河畔で黄金色の田んぼに目が釘付けになった。この豊かな実りも、水あってこそのものである。夢中でシャッターを押していると、鳥舎の音がパーン、パーンと周囲にこだました。秋の空は高く、山里は収穫の時期を迎えていた。(群馬県東吾妻町、吾妻川)